

Windows および Linux 用のインストールおよび構成ガイド

vCenter Operations Manager 5.7

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-000820-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります

VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2013 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエルムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

	vCenter Operations Manager のインストール ガイド	5
1	vCenter Operations Manager のインストール前に	7
	概要	7
	アーキテクチャ	7
2	システム要件	9
	オペレーティングシステムの要件	9
	vCenter Operations Server のハードウェア要件	9
	vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件	10
	クライアントシステムのハードウェアおよびソフトウェア要件	10
3	インストールおよび構成チェックリスト	11
4	vCenter Operations Manager データベースの準備	13
	Windows ホスト上での SQL データベースの準備	13
	Windows ホスト上での Oracle データベースの準備	14
	Linux ホスト上での Oracle データベースの準備	14
5	vCenter Operations Manager のインストール	17
	Windows への vCenter Operations Manager のインストール	17
	vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - GUI モード	19
	vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - コンソール モード	22
	詳細な vCenter Operations Manager の構成	23
6	vCenter Operations Manager インストールの検証	27
7	プログラム グループによる管理	29
8	vCenter Operations Manager コレクタのインストール	31
9	vCenter Operations Manager アダプタのインストール	33
	アダプタのインストール	33
10	分析プロセッサのインストール	35
	分析プロセッサのインストール	35
	インデックス	37

vCenter Operations Manager のインストール ガイド

『vCenter Operations Manager インストールおよび構成ガイド』では、Windows または Linux OS 上での VMware vCenter Operations Manager のインストールおよびアップグレードについての情報を提供します。

対象読者

本書は、これから vCenter Operations Manager をインストールする方を対象としています。

vCenter Operations Manager のインストール前に

1

このセクションでは、vCenter Operations Manager サーバのインストールについて説明します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [概要 \(P. 7\)](#)
- [アーキテクチャ \(P. 7\)](#)

概要

vCenter Operations Manager のインストールは、2 つの手順で構成されています。

- 1 vCenter Operations Manager のデータを保持する SQL Server または Oracle のいずれかでのデータベースの準備。
- 2 vCenter Operations Manager ソフトウェアのインストール。

vCenter Operations Manager は、エンタープライズソリューションとして設計されているため、デプロイを成功させるためには、環境の計画および準備が不可欠となります。vCenter Operations Manager の環境を計画するときは、いくつかの要因を考慮する必要があります。

- 環境のサイズおよびランドスケープ - vCenter Operations Manager のアーキテクチャでは、アプリケーションの数、データ ソース、リソースおよびメトリック、物理環境の分散 (データセンターの数) およびユーザー数など、環境の大きさを考慮しなければなりません。
- Environment complexity—what specific architectural and service level requirements must be met, including security, availability, and accessibility.

アーキテクチャ

vCenter Operations Manager のアーキテクチャでは、デプロイの柔軟性が得られます。

vCenter Operations Manager は、次の 4 つの独立したコンポーネントを持つ Java ベースのアプリケーションです。

- vCenter Operations Manager サーバ - ユーザー インターフェイスをホストし、他のコンポーネント間の通信の制御など、ソフトウェアの機能を調整します。
- vCenter Operations Manager 分析 - 監視されたリソースから収集されたメトリックの受信、データの分析、異常動作の検出を目的とした統計モデルの作成を行います。This includes the dynamic thresholds processor, which can be installed separately to distribute the processing load, as described in [第 10 章「分析プロセッサのインストール \(P. 35\)」](#) .

- vCenter Operations Manager コレクタ - vCenter Operations Manager と収集ランドスケープからデータを収集するために使用するアダプタとの間のゲートウェイのような働きをします。It is installed by default as part of the primary server but can also be distributed as a stand-alone component.ファイアウォールのナビゲーション、データセンター間のバンド幅の共有、および vCenter Operations Manager サーバに対する負荷の軽減を実行するため、1 つあるいは複数のリモート コレクタをインストールできます。You can install the collector on a shared server.
- vCenter Operations Manager メッセージング - vCenter Operations Manager コンポーネント間でメトリック情報を渡すメッセージパス (ActiveMQ) です。

vCenter Operations Manager には、2 つのデータ ストレージ ソリューションが使用されています。A relational database (Oracle or Microsoft SQL Server) stores configuration and state data.独自の高性能ファイルシステム ベース リポジトリ (FSDB) は、収集された生メトリックを保存します。

インストール スクリプトにより、すべての vCenter Operations Manager コンポーネント (メッセージングを含むサーバ、コレクタ、および分析) が同じフォルダ構造内にインストールされます。また、複数の vCenter Operations Manager システム ツールもインストールされます。

システム要件

vCenter Operations Manager には、特別なハードウェア要件とソフトウェア要件があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [オペレーティング システムの要件 \(P. 9\)](#)
- [vCenter Operations Server のハードウェア要件 \(P. 9\)](#)
- [vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件 \(P. 10\)](#)
- [クライアント システムのハードウェアおよびソフトウェア要件 \(P. 10\)](#)

オペレーティング システムの要件

サポートされている OS に vCenter Operations Manager をインストールする必要があります。

表 2-1. vCenter Operations Manager がサポートする OS

オペレーティング システム	バージョン	Service Pack
Windows Server 2003	64 ビット	SP2 or later
Windows Server 2008	64 ビット	該当なし
Red Hat Enterprise Linux 5	64 ビット	該当なし

vCenter Operations Server のハードウェア要件

特定のハードウェア要件を満たす 64 ビットのマシンに vCenter Operations Manager サーバをインストールする必要があります。

表 2-2. ハードウェア要件

Hardware Component	One Million Metrics	Two Million Metrics	Six Million Metrics
CPU	4CPU	8CPU	32CPU
メモリ	14GB	28GB	72GB
ディスク ストレージ	1.5TB FSDB : 1.5TB Database:100GB	3TB FSDB: 2.8TB Database:200GB	8.8TB FSDB : 8.4TB Database:400GB
Analytics 仮想マシン用の ディスク I/O	2,000 IOPS	4,000 IOPS	12,000 IOPS

vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件

vCenter Operations Manager がデータを保存するには、SQL または Oracle データベースが必要です。データベースサーバは、vCenter Operations Manager データベース専用のものでなければなりません。データベースを構成し、vCenter Operations Manager サーバ ホストで使用できるようにする必要があります。

vCenter Operations Manager は、次のデータベース サーバとバージョンをサポートしています。

- Oracle 10g Release 2
- Oracle 11g Release 2
- Microsoft SQL Server 2005 SP2 or later
- Microsoft SQL Server 2008

Microsoft SQL Server is supported only on Windows hosts. Microsoft SQL Server データベースは、Windows ホスト上の vCenter Operations Manager インストールでのみサポートされます。

Microsoft SQL Server を使用中に統合された Windows 認証を使用することはできません。JDBC ドライバは、integratedSecurity 接続の文字列プロパティを介した Windows OS での Type 2 統合認証の使用をサポートします。統合認証を使用するには、`sqljdbc_auth.dll` ファイルを `%ALIVE_BASE%/common/bin` フォルダにコピーします。

The computer that hosts the database server must meet minimum hardware requirements.

- 2GB RAM
- Two 32-bit CPUs, P4 2GHz or faster

For systems that collect more than one million metrics, the database server host should have 8GB RAM and two 64-bit CPUs.

データベース サーバ ホストと vCenter Operations Manager サーバ ホストとの間の ping 時間は、1 ミリ秒未満でなければなりません。

クライアント システムのハードウェアおよびソフトウェア要件

お使いのシステムが vCenter Operations Manager クライアントをサポートしていることを確認します。

表 2-3. Client System Hardware and Software Requirements

コンポーネント	要件
RAM	At least 2GB
ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> ■ Internet Explorer 8.x または 9 ■ Mozilla Firefox 3.6 以降 JavaScript を有効にする必要があります。 ポップアップ ブロッカーを削除するか、無効にする必要があります。
PDF ビューア	Adobe Reader or a similar PDF viewer for viewing reports.

インストールおよび構成チェックリスト

このチェックリストを使用し、vCenter Operations Manager スタンドアロンのインストールおよび構成の進捗を追跡します。これには、デフォルトの構成設定を変更した内容がすべて含まれています。

注意 構成設定の変更は、このガイドの対象範囲外です。お使いのインストールの適切な設定を判断するには、VMware の担当者にお問い合わせください。

表 3-1. インストールのチェックリスト

操作項目	メモ
[プリインストール]	
サイズの予測に基づいてハードウェアを取得します。	
ソフトウェアをダウンロードします。	
[データベースの準備]	
SQL Server の場合：	
<ul style="list-style-type: none"> ■ SQL Server をインストールします。 ■ 新しいデータベースを作成するのに十分な権限を持つ Windows または SQL 認証アカウントを作成します。 	
Oracle の場合：	
<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle をインストールします。 ■ SQLPlus ツールをインストールし、構成します。 ■ テーブルスペースおよびユーザー スキーマを作成するのに十分な Oracle の権限を持つユーザーを作成します。 	
[ハードウェアの準備]	
vCenter Operations Manager サーバおよびデータベース サーバへの外部ポート アクセスを確認します。デフォルトのサーバポートに含まれているもの：	
<ul style="list-style-type: none"> ■ リモート コレクタ： 80、1100、61616 ■ 外部： 1433、1521 	
vCenter Operations Manager サーバ上で次のポートが予約されていることを確認します。1099、1100、1199、1201、1202、1203、61616	
vCenter Operations Manager サーバとデータベース サーバとの間の応答時間が 1 ミリ秒より長いことを確認します。	
[インストール]	

表 3-1. インストールのチェックリスト (続き)

操作項目	メモ
<p>プライマリ vCenter Operations Manager サーバをインストールし、構成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ vCenter Operations Manager データベース構成のテスト■ FSDB ホーム パスの検証■ 構成ウィザードを完了する前に、すべての未使用のアダプタ (Hyperic、ITM、SCOM など) をプラグイン ディレクトリへ移動します。	
<p>(オプション) バックアップ オプションを使用してセカンダリ サーバをインストールし、構成します。</p>	
<p>(オプション) リモート コレクタをインストールし、構成します。</p>	

vCenter Operations Manager データベースの準備

4

vCenter Operations Manager をインストールする前に、Microsoft SQL Server または Oracle のいずれかで vCenter Operations Manager のデータを保存するデータベースを作成する必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Windows ホスト上での SQL データベースの準備 \(P. 13\)](#)
- [Windows ホスト上での Oracle データベースの準備 \(P. 14\)](#)
- [Linux ホスト上での Oracle データベースの準備 \(P. 14\)](#)

Windows ホスト上での SQL データベースの準備

SQL スクリプトを実行することにより vCenter Operations Manager 用の SQL データベースを準備します。vCenter Operations Manager インストールパッケージには、SQL スクリプトが含まれています。

開始する前に

- vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件について理解しておく必要があります。 [\[vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件 \(P. 10\)\]](#) を参照してください。
- Install SQL Server.
- 新規データベースおよび新規 SQL ユーザーを作成するのに十分な権限を持つ Windows 認証アカウントおよび SQL 認証アカウントを作成します。
- vCenter Operations Manager インストールパッケージを取得します。
- SQL スクリプトを含む `vcops-db-scripts-sqlserver-<build number>.zip` という ZIP ファイルを解凍します。

手順

- 1 If you are using Windows authentication for SQL Server, log in as a user who has sufficient privileges to create a database.
- 2 Microsoft SQL Server インスタンスに新しいデータベースを作成します。
- 3 SQL Server Management Studio で、新しいデータベースに接続して、解凍された ZIP ファイルから `vcops_sqlserver_10.sql` スクリプトを実行します。

次に進む前に

vCenter Operations Manager サーバをインストールします。 [\[Windows への vCenter Operations Manager のインストール \(P. 17\)\]](#) を参照してください。

Windows ホスト上での Oracle データベースの準備

Oracle データベースが Windows ホスト上にある場合は、バッチ ファイルを実行して vCenter Operations Manager のデータを保存するデータベースを準備することができます。バッチ ファイルは、vCenter Operations Manager インストール パッケージに含まれています。

バッチ ファイルにより、**vcops10_TS** という名前の 500MB の Oracle テーブルスペース、**vcops** という名前の Oracle スキーマ、vCenter Operations Manager のデータベース オブジェクト (テーブル、インデックスおよびシーケンスを含む)、およびデータベースの大文字と小文字を区別するトリガが作成されます。構成をさらにコントロールするために、これらの操作を手動で実行することもできます。手動構成プロセスについての詳細は、vCenter Operations Manager のインストール ディレクトリにある **Readme.txt** ファイルを参照してください。

開始する前に

- Familiarize yourself with the database server requirements. [「vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件 \(P. 10\)」](#) を参照してください。
- Install Oracle.
- sqlplus ツールをインストールして、構成します。
- Create a user that has sufficient Oracle privileges to create a tablespace and user schemas.
- Decide where on the disk to create the tablespace.
- vCenter Operations Manager インストール パッケージを取得します。

手順

- 1 **tnsnames.ora** ファイルで、vCenter Operations Manager サーバが Oracle サーバへ接続するために使用できる接続名を追加します。
- 2 **vcops-db-scrips-oracle-`<buildnumber>`.zip** ファイルから使用可能なディレクトリにファイルを抽出します。
vcops-db-scrips-oracle-`<buildnumber>`.zip ファイルは、vCenter Operations Manager の実行可能ファイルと同じフォルダにあります。
- 3 **setup.bat** コーティリティを実行します。
例: **setup.bat <connection> <user> <password>**
`<connection>` は、**tnsnames.ora** で定義されている接続名です。`<user>` および `<password>` で指定したユーザーには、Oracle データベースへ SYSDBA としてログインする権限が必要です。
- 4 Verify that the tablespace and user schema were created properly.

次に進む前に

vCenter Operations Manager サーバをインストールします。 [「Windows への vCenter Operations Manager のインストール \(P. 17\)」](#) を参照してください。

Linux ホスト上での Oracle データベースの準備

Oracle データベースが Linux ホスト上にあり、Windows コンピュータからそのホストにアクセスできない場合は、Linux ホストでシェル スクリプトを実行して、vCenter Operations Manager のデータを保存する Oracle データベースを準備することができます。

開始する前に

- Familiarize yourself with the database server requirements. [「vCenter Operations Manager のデータベース サーバの要件 \(P. 10\)」](#) を参照してください。

- Install Oracle.
- sqlplus ツールをインストールして、構成します。
- Create a user that has sufficient Oracle privileges to create a tablespace and user schemas.
- Decide where on the disk to create the tablespace.
- vCenter Operations Manager インストール パッケージを取得します。

手順

- 1 vCenter Operations Manager インストール ファイルをバイナリ モードで Linux ホストにアップロードします。
- 2 `setupOracle.sh` ファイルの権限を変更して、実行可能にします。

例: `chmod +x setupOracle.sh`

- 3 `vcopsTableSpace.sql` ファイルで、OS ファイル名の値が Oracle インスタンスに対して適切であることを確認し、必要な場合は vCenter Operations Manager OS ファイルのサイズを調整します。

デフォルトのサイズは 500MB です。

- 4 テーブルスペース名を変更した場合は、`vcops10_TS` を `vcopsUser.sql` ファイル内の正しいテーブルスペース名に置換します。

例: `DEFINE vcops_tablespace = "<tablespacename>"`

- 5 `setupOracle.sh` を実行します。

例: `setupOracle.sh -s <SID> -u <user> -p <pwd> -t -r`

<SID> は Oracle システム識別子で、<user> は SYSDBA としてログインできる Oracle ユーザーで、<pwd> はそのユーザーのパスワードです。

次に進む前に

vCenter Operations Manager サーバをインストールします。第 5 章「[vCenter Operations Manager のインストール \(P. 17\)](#)」を参照してください。

vCenter Operations Manager のインストール

5

vCenter Operations Manager ソフトウェアを、Windows か Linux のサポートされているいずれかのバージョンにインストールできます。GUI モードを使用する Windows、Linux、およびコンソール モードを使用する Linux について、別々の手順があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Windows への vCenter Operations Manager のインストール \(P. 17\)](#)
- [vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - GUI モード \(P. 19\)](#)
- [vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - コンソール モード \(P. 22\)](#)
- [詳細な vCenter Operations Manager の構成 \(P. 23\)](#)

Windows への vCenter Operations Manager のインストール

vCenter Operations Manager をサポートされているバージョンの Windows にインストールします。

開始する前に

- VMware では、管理者のユーザー名を使用することを推奨します。
- サービスを作成するのに十分な権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。
- If you are using SQL Server with Windows authentication, you must also be able to create and modify databases.

手順

- 1 ホスト マシンへログインし、vCenter Operations Manager 実行可能ファイルを含むフォルダに移動します。
- 2 `vcops-win64<version_and_build_number>.exe` ファイルを実行します。vCenter Operations Manager インストール ウィザードの最初のページが表示されます。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 Read the Patent Agreement in its entirety. [次へ] をクリックします。
- 5 Read the License Agreement in its entirety.[使用許諾契約書に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 6 [インストール セットの選択] ページで、完全インストールの横にあるアイコンをクリックし、[次へ] をクリックします。

これにより、vCenter Operations Manager コンポーネントがすべてインストールされます。

vCenter Operations Manager を 32 ビットのシステムにインストールする場合は、完全インストールを選択できません。32 ビットのシステムにインストールできるのは、vCenter Operations Manager リモート コレクタか、個別の分析プロセッサのみとなります。

注意 [コレクタ] オプションでは、パフォーマンスとアクセシビリティを向上させるため、リモート サーバに vCenter Operations Manager コレクタのみがインストールされます。第 8 章 [「vCenter Operations Manager コレクタのインストール \(P. 31\)」](#) を参照してください。

- 7 [インストール フォルダの選択] ページで、[OK] をクリックしてデフォルトのインストール フォルダを受け入れるか、[参照] をクリックしてインストール先フォルダを選択します。The default installation folder is `\vmware\vmcenter-operations` beneath the default program installation folder for your system. We recommend you accept the default. [次へ] をクリックします。
- 8 [プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。[インストール] をクリックして、インストールを開始します。プロセスのこの部分が完了すると (これには数分かかる場合があります)、[構成モード] ページが表示されます。
- 9 On the Configuration Mode page, select [Basic] or [Advanced]. Use advanced configuration only if one or more of the following is true:
- リモート vCenter Operations Manager コレクタと vCenter Operations Manager サーバとの間の通信は、ファイアウォールまたは HTTP プロキシ経由になります。
 - vCenter Operations Manager は、100,000 を超えるリソースを監視します。
 - プライマリ vCenter Operations Manager サーバとバックアップサーバとの間のレプリケーションが有効化されています。
 - セキュリティ上の理由から、vCenter Operations Manager コンポーネントにデフォルトのパスワードおよびポートを使用しないようにすることができます。
- 10 [フル構成] ページで、[サーバ構成] の下の [プライマリ] または [バックアップ] を選択します。
- 11 [データベース タイプ] フィールドで、[SQL] または [Oracle] を選択します。Fields appropriate for the selected database appear on the page.
- Oracle データベースの場合、[データベース名] と [インスタンス名] のフィールドは表示されず、[SID] フィールドが追加されます。
- 12 Oracle データベースを使用している場合は、[SID] フィールドにそのシステム識別子を入力します。
- 13 [データベース ホスト] フィールドに、データベース サーバの IP アドレスを入力します。
- 14 [データベース ポート] フィールドは、別のポート番号を使用してデータベースをインストールしていない限り、デフォルトの入力値 (SQL Server は 1433、Oracle は 1521) のままにしておきます。
- 15 SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
- 16 [認証]、[ユーザー名]、および [パスワード] の各フィールドでは、使用する認証のタイプを選択し (SQL Server データベースの場合のみ)、SQL Server データベースまたは Oracle スキーマの読み書きの権限を持つユーザーのユーザー名およびパスワードを入力してください。
- vCenter Operations Manager がデータベースとの接続を確立するには、SQL 認証の認証情報を持つユーザー アカウントが必要です。If you want to use Windows authentication with SQL Server, there are additional steps to perform after completing the installation.
- 17 Click the [Test] button to test the connection to the database. If the test fails, check your entries, make any needed corrections, and try again.

- 18 vCenter Operations Manager サーバ構成で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。これにより、vCenter Operations Manager サーバへのクライアント接続に使用するプロトコルが設定されます。
- vCenter Operations Manager は、vCenter Operations Manager サーバへのハイパーリンクを含むアラート E メール メッセージを送信し、管理者がアラートに関する詳細な情報を参照できるようにします。オフサイトの管理者がこれらのリンクを使用できるようにするには、必ず vCenter Operations Manager サーバの公開 IP アドレスを入力してください。ホスト名を **localhost** に設定しないでください。
- 19 HTTP POST メソッドを使用するアダプタで Web 認証を使用する場合は、HTTP POST アダプタ Web 認証を有効にするというチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスをオンにすると、管理アクセス権を持つ vCenter Operations Manager のユーザーのみが vCenter Operations Manager ヘデータをポストできるようになります。
- 20 [vCenter Operations Manager サーバポート] フィールドには、選択したプロトコルのデフォルトのポート番号が表示されます。If you need to change this, port, type the correct number.
- 21 vCenter Operations Manager サーバへのインターネット接続を有効にするには、vCenter Operations Manager ホスト フィールドにサーバ名かサーバの公開 IP アドレスを入力します。(The installer tries to detect the host name or IP address of the server and fill it in as the default.)If you leave this field blank, users will not be able to connect from outside the local network.
- 22 [FSDB ホーム (ファイルシステム データベース)] フィールドで、vCenter Operations Manager が収集するメトリックを保存するディレクトリへのパスを入力します。You can enter up to eight locations to distribute drive I/O use.If you enter more than one, separate them with semi-colons.最高のパフォーマンスを得るために、これを vCenter Operations Manager ソフトウェアがインストールされているドライブと同じドライブに置かないようにしてください。
- 23 [SMTP ホストと SMTP ポート] に、vCenter Operations Manager が E メール メッセージを送信するのに使用する SMTP サーバのホスト名または IP アドレスとポート番号を入力します。
- 24 [受信者] に、1 つあるいは複数の E メール アドレスを入力します。複数を入力する場合は、コンマで区切ります。vCenter Operations Manager サービスが失敗するか、問題が発生した場合、各受信者に E メールが送信されます。
- 25 必要に応じて、[テスト] ボタンをクリックして E メール構成をテストします。ここで、SMTP ホストおよびポートの設定が確認され、入力した受信者宛に E メール メッセージの送信が試みられます。It displays an appropriate message if any of its tests fail.ただし、存在しないアドレスへメッセージを送信しても、すぐに失敗とならないため、受信者として入力された E メール アドレスが実際に存在することを確認することはできません。
- 26 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。
- 27 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 28 If the server host has two IP addresses:
- Choose [No] and click [Done].
 - ファイル `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
 - 次の行をファイルに追加します：


```
wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name.
```

 ここでは、IP アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
 - 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
 - Reboot the system.

vCenter Operations Manager のインストールが完了します。

vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - GUI モード

vCenter Operations Manager をサポートされているバージョンの Linux にインストールします。

vCenter Operations Manager の以前のバージョンがすでに Linux ホストにインストールされている場合は、vCenter Operations Manager をインストールする前にそのプロセスを停止する必要があります。これは、vcenter-ops/vcops.sh を使用して実行できません。stop パラメータとともに、このスクリプトを実行します：

```
vcops.sh stop
```

サービスがすべて停止したことを確認するには、status パラメータを使用します。

```
vcops.sh status
```

開始する前に

- vCenter Operations Manager のインストールに用いる Linux ユーザー アカウントには、ルート レベルの権限が必要です。ルート以外のアカウントでインストールを実行できるようにしたい場合は、VMware プロフェッショナル サービスまでお問い合わせください。
- X Windows System release 11 (X11) needs to be running on the Linux server.
- You must have a standard terminal emulator for X Windows System.

手順

- 1 Using binary mode, upload vcops.bin to the target Linux host.
- 2 **vcops.bin** があるフォルダに移動します。
- 3 実行可能となるよう、このファイル上の権限を変更します：


```
chmod +x vcops.bin
```
- 4 X Windows 用の標準ターミナル エミュレータから、プログラム **vcops.bin** を実行します。
vCenter Operations Manager インストール ウィザードの最初のページが表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 Read the Patent Agreement in its entirety. [次へ] をクリックします。
- 7 Read the License Agreement in its entirety. [使用許諾契約書の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール セットの選択] ページで、完全インストールの横にあるアイコンをクリックし、[次へ] をクリックします。

これで、vCenter Operations Manager コンポーネントがすべてインストールされます。vCenter Operations Manager を 32 ビットのシステムにインストールする場合は、完全インストールを選択できません。32 ビットのシステムにインストールできるのは、vCenter Operations Manager リモート コレクタか、個別の分析プロセッサのみとなります。

注意 [コレクタ] オプションでは、パフォーマンスとアクセシビリティを向上させるため、リモート サーバに vCenter Operations Manager コレクタのみがインストールされます。[第 8 章 \[vCenter Operations Manager コレクタのインストール \(P. 31\)\]](#) を参照してください。

- 9 On the Choose Install Folder page, click [OK] to accept the default installation folder, or click [Browse] and select the installation folder you want. デフォルトのインストール フォルダは、**/root/vmware/vcenter-operations** です。We recommend you accept the default. [次へ] をクリックします。
- 10 [プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。[インストール] をクリックして、インストールを開始します。プロセスのこの部分が完了すると (これには数分かかる場合があります)、[構成モード] ページが表示されます。

- 11 On the Configuration Mode page, select [Basic] or [Advanced] .Use advanced configuration only if one or more of the following is true:
- リモート vCenter Operations Manager コレクタと vCenter Operations Manager サーバとの間の通信が、ファイアウォールまたは HTTP プロキシ経由となる場合。
 - vCenter Operations Manager は、100,000 を超えるリソースを監視している場合。
 - プライマリ vCenter Operations Manager サーバとバックアップ サーバとの間のレプリケーションが有効化されている場合。
 - セキュリティ上の理由から、vCenter Operations Manager コンポーネントにデフォルトのパスワードおよびポートを使用しないほうがよいと判断される場合もあります。
- 12 [フル構成] ページで、[サーバ構成] の下の [プライマリ] または [バックアップ] を選択します。
- 13 [データベースタイプ] フィールドで、[SQL] または [Oracle] を選択します。Fields appropriate for the selected database appear on the page.
- Oracle データベースの場合、[データベース名] と [インスタンス名] のフィールドは表示されず、[SID] フィールドが追加されます。
- 14 Oracle データベースを使用している場合は、[SID] フィールドにそのシステム識別子を入力します。
- 15 [データベース ホスト] フィールドに、データベース サーバの IP アドレスを入力します。
- 16 [データベース ポート] フィールドは、別のポート番号を使用してデータベースをインストールしていない限り、デフォルトの入力値 (SQL Server は 1433、Oracle は 1521) のままにしておきます。
- 17 SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
- 18 [認証]、[ユーザー名]、および [パスワード] の各フィールドでは、使用する認証のタイプを選択し (SQL Server データベースの場合のみ)、SQL Server データベースまたは Oracle スキーマの読み書きの権限を持つユーザーのユーザー名およびパスワードを入力してください。
- vCenter Operations Manager がデータベースとの接続を確立するには、SQL 認証の認証情報を持つユーザー アカウントが必要です。If you want to use Windows authentication with SQL Server, there are additional steps to perform after completing the installation.
- 19 Click the [Test] button to test the connection to the database.If the test fails, check your entries, make any needed corrections, and try again.
- 20 [vCenter Operations Server の構成] で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。これにより、vCenter Operations Manager サーバへのクライアント接続に使用するプロトコルが設定されます。
- vCenter Operations Manager は、vCenter Operations Manager サーバへのハイパーリンクを含むアラート E メール メッセージを送信し、管理者がアラートに関する詳細な情報を参照できるようにします。オフサイトの管理者がこれらのリンクを使用できるようにするには、必ず vCenter Operations Manager サーバの公開 IP アドレスを入力してください。ホスト名を **localhost** に設定しないでください。
- 21 HTTP ポスト メソッドを使用するアダプタで Web 認証を使用する場合は、HTTP ポスト アダプタ Web 認証を有効にするというチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスをオンにすると、管理アクセス権を持つ vCenter Operations Manager のユーザーのみが vCenter Operations Manager ヘデータをポストできるようになります。
- 22 [vCenter Operations サーバ ポート] フィールドには、選択したプロトコルのデフォルトのポート番号が表示されます。If you need to change this, port, type the correct number.
- 23 vCenter Operations Manager サーバへのインターネット接続を有効にするには、[vCenter Operations サーバ ホスト] フィールドにサーバ名かサーバの公開 IP アドレスを入力します。(The installer tries to detect the host name or IP address of the server and fill it in as the default.)If you leave this field blank, users will not be able to connect from outside the local network.

- 24 [FSDB ホーム (ファイル システム データベース)] フィールドで、vCenter Operations Manager が収集するメトリックを保存するディレクトリへのパスを入力します。You can enter up to eight locations to distribute drive I/O use.If you enter more than one, separate them with semi-colons.最高のパフォーマンスを得るために、これを vCenter Operations Manager ソフトウェアがインストールされているドライブと同じドライブに置かないようにしてください。
- 25 [SMTP ホストと SMTP ポート] に、vCenter Operations Manager が E メール メッセージを送信するのに使用する SMTP サーバのホスト名または IP アドレスとポート番号を入力します。
- 26 [受信者] に、1 つあるいは複数の E メール アドレスを入力します。複数を入力する場合は、コンマで区切ります。vCenter Operations Manager サービスが失敗するか、問題が発生した場合、各受信者に E メールが送信されます。
- 27 必要に応じて、[テスト] ボタンをクリックして E メール構成をテストします。ここで、SMTP ホストおよびポートの設定が確認され、入力した受信者宛に E メール メッセージの送信が試みられます。It displays an appropriate message if any of its tests fail.ただし、存在しないアドレスへメッセージを送信しても、すぐに失敗とならないため、受信者として入力された E メール アドレスが実際に存在することを確認することはできません。
- 28 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。
- 29 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 30 If the server host has two IP addresses:
 - Choose [No] and click [Done].
 - ファイル `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
 - 次の行をファイルに追加します :


```
wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name.
```

 ここでは、IP アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
 - 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
 - Reboot the system.

vCenter Operations Manager のインストールが完了します。

vCenter Operations Manager の Linux へのインストール - コンソール モード

vCenter Operations Manager をサポートされているバージョンの Linux にインストールします。

開始する前に

vCenter Operations Manager の以前のバージョンがすでに Linux ホストにインストールされている場合は、vCenter Operations Manager をインストールする前にそのプロセスを停止する必要があります。これは、スクリプト ファイル `vcops.sh` を使用して実行できます。stop パラメータとともに、このスクリプトを実行します :

```
vcops.sh stop
```

サービスがすべて停止したことを確認するには、status パラメータを使用します。

```
vcops.sh status
```

手順

- 1 バイナリ モードを使用して、`vcops.bin` をターゲット Linux ホストへアップロードします。
- 2 `vcops.bin` があるフォルダに移動します。実行可能となるよう、このファイル上の権限を変更します :


```
chmod +x vcops.bin
```
- 3 このコマンドを入力し、コンソール モードのインストールを開始します :


```
./vcops.bin -i console
```

- 4 GUI モードのインストールに入力した情報のすべてが、コンソール モードにおいてプロンプト表示されます。

インストールの完了後、「[詳細な vCenter Operations Manager の構成 \(P. 23\)](#)」を参照してください。

詳細な vCenter Operations Manager の構成

詳細な構成を実行するには、構成モードにアクセスし、次の手順にしたがってインストールを完了してください。

開始する前に

vCenter Operations Manager をインストールします。

手順

- 1 [詳細な構成] から、[サーバ構成] の下の [プライマリ] または [バックアップ] を選択します。
 - 2 [vCenter Operations Server の構成] で、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。
これにより、vCenter Operations Manager サーバへのクライアント接続に使用するプロトコルが設定されます。
 - 3 vCenter Operations Manager サーバへのインターネット接続を有効にするには、[vCenter Operations サーバ ホスト] フィールドにサーバ名かサーバの公開 IP アドレスを入力します。
インストーラは、サーバのホスト名または IP アドレスを検出し、それをデフォルトとして入力しようとします。このフィールドを空白のままにしておく、ユーザーはローカル ネットワークの外から接続することができなくなります。
-
- 注意** vCenter Operations Manager は、vCenter Operations Manager サーバへのハイパーリンクを含むアラート E メール メッセージを送信し、管理者がアラートに関する詳細な情報を参照できるようにします。オフサイトの管理者がこれらのリンクを使用できるようにするには、必ず vCenter Operations Manager サーバの公開 IP アドレスを入力してください。ホスト名を localhost に設定しないでください。
-
- 4 [vCenter Operations サーバ ポート] フィールドには、選択したプロトコルのデフォルトのポート番号が表示されます。このポートを変更する必要がある場合は、正しい番号を入力してください。
 - 5 HTTP ポスト メソッドを使用するアダプタで Web 認証を使用する場合は、HTTP ポスト アダプタ Web 認証を有効にするというチェック ボックスを選択します。
 - 6 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager Web JVM プロセスを次のように設定します。
 - [最大メモリ] – vCenter Operations Manager ユーザーに割り当てられた最大のヒープ サイズ。
 - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
 - 7 [Next] をクリックします。
 - 8 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager 分析 JVM プロセスを次のように設定します。
 - [最大メモリ] – メトリック計算に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
 - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
 - 9 [RMI 構成] の下で、RMI が分析サービスへアクセスするホストおよびポートを設定します。
 - 10 [データ ストレージの場所] の下で、FSDB ホームの場所を設定します。
ドライブ I/O の使用を分散するために、最大で 8 つの場所を入力できます。複数を入力する場合は、セミコロンで区切ります。最高のパフォーマンスを得るために、FSDB を vCenter Operations Manager ソフトウェアがインストールされているドライブと同じドライブに置かないようにしてください。

- 11 FSDB レプリケーションを有効にする場合は、[レプリケーション サーバ] の下の [レプリケーションの有効化] チェック ボックスを選択します。
有効化すると、vCenter Operations Manager は、FSDB データをリモート サーバへプッシュします。リモート MQ サーバの次のパラメータを入力します：ホスト、ポート、プロトコル、コントロールキュー、応答キュー、データ キュー、ユーザー名、パスワード。
- 12 このサーバとレプリケーションサーバとの間で既存データの同期をする場合は、[同期の有効化] チェック ボックスを選択します。
このチェック ボックスを選択していなければ、このポイント以降に収集されたデータのみが、レプリケーションサーバへコピーされることとなります。このオプションは、vCenter Operations Manager の最初のインストール後にレプリケーションサーバを設定する際、最も頻繁に使用されるオプションです。
- 13 [次へ] をクリックします。
- 14 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager メッセージ キュー JVM プロセスを次のように設定します。
 - [最大メモリ] – vCenter Operations Manager ユーザーに割り当てられた最大のヒープ サイズ。
 - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
- 15 vCenter Operations Manager 上での JMX 監視を有効にする場合は、[メッセージ キューの構成] の下の [JMX の有効化] チェック ボックスを選択します。JMX 監視を有効にする場合は、次の MQ パラメータを設定します：ホスト、ポート、プロトコル、コレクタ キュー、コントローラ キュー、データ キュー、ユーザー名、パスワード。
- 16 [Next] をクリックします。
- 17 収集設定を構成します。
- 18 [メモリ構成] の下で、vCenter Operations Manager コレクタ JVM プロセスを次のように設定します。
 - [最大メモリ] – vCenter Operations Manager リソースに割り当てられた最大のヒープ サイズ。
 - [最大パーマネント メモリ] – JVM クラスのコンパイルおよび実行に割り当てられた最大のヒープ サイズ。
- 19 [コレクタ構成] の下で、コレクタの接続パラメータを次のように設定します。
 - コレクタ名
 - RMI ポート
 - 最大スレッド
 - 最小データ送信サイズ：Center Operations Manager リソースの数によって測定されます。
 - ハート ビート スリープ時間：コレクタの健全性を確認します。ミリ秒で測定されます。
- 20 コレクタから vCenter Operations Manager への HTTP プロキシを有効にするには、[HTTP プロキシの有効化] チェック ボックスを選択します。これを有効にする場合は、ホストとポートを設定します。
- 21 [SMTP ホストと SMTP ポート] に、vCenter Operations Manager が E メール メッセージを送信するのに使用する SMTP サーバのホスト名/IP アドレスとポート番号を入力します。
- 22 [受信者] に、1 つあるいは複数の E メール アドレスを入力します。複数を入力する場合は、コンマで区切ります。vCenter Operations Manager サービスが失敗するか、問題が発生した場合、各受信者に E メールが送信されます。
- 23 [次へ] をクリックします。
このページの設定は、vCenter Operations Manager サーバがバックアップ モードで動作している場合にのみ使用されます。
 - [メッセージ キュー構成] の下で、レプリケーションサーバのパラメータを設定します：ホスト、ポート、プロトコル、コレクタ キュー、コントローラ キュー、データ キュー、ユーザー名、パスワード。
 - [データ ストレージの場所] の下で、ローカル FSDB ホームの場所を設定します。ドライブ I/O の使用を分散するために、最大で 8 つの場所を入力できます。複数を入力する場合は、セミコロンで区切ります。

24 [次へ] をクリックします。

- [データベース タイプ] フィールドで、[SQL] または [Oracle] を選択します。選択したデータベースに適したフィールドがページ上に表示されます。
Oracle データベースの場合、[データベース名] と [インスタンス名] のフィールドは表示されず、[SID] フィールドが追加されます。
- Oracle データベースを使用している場合は、[SID] フィールドにそのシステム識別子を入力します。
- [データベース ホスト] フィールドに、データベース サーバの IP アドレスを入力します。
- [データベース ポート] フィールドは、別のポート番号を使用してデータベースをインストールしていない限り、デフォルトの入力値 (SQL Server は 1433、Oracle は 1521) のままにしておきます。
- SQL Server データベースを使用している場合は、[データベース名] フィールドに vCenter Operations Manager データベースの名前を入力します。
- SQL Server データベースを使用しており、データベースのインスタンス名を指定する必要がある場合は、そのフィールドに入力します。
- [認証]、[ユーザー名]、および [パスワード] の各フィールドでは、使用する認証のタイプを選択し (SQL Server データベースの場合のみ)、SQL Server データベースまたは Oracle スキーマの読み書きの権限を持つユーザーのユーザー名およびパスワードを入力してください。

注意 vCenter Operations Manager がデータベースとの接続を確立するには、SQL 認証の認証情報を持つユーザー アカウントが必要です。SQL Server に Windows 認証を使用する場合は、インストールの完了後に追加の手順を実行する必要があります。

- [テスト] ボタンをクリックし、データベースへの接続をテストします。テストに失敗した場合、入力値を確認して必要な修正を行い、もう一度実行してください。

25 [終了] をクリックしてインストールを完了します。[インストールの完了] ページが表示されます。

26 [インストールの完了] ページで、コンピュータを自動で再起動するか手動で再起動するかを選択します。サーバ ホストに 1 つの IP アドレスしかない場合は、[はい] を選択し、システムを再起動して [完了] をクリックします。システムが再起動されます。

サーバ ホストに 2 つの IP アドレスがある場合は、

- a [いいえ] を選択して [完了] をクリックします。
- b メモ帳またはその他のエディタで、ファイル `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` を開きます。
- c 次の行をファイルに追加します : `wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name`。ここでは、IP アドレス/名前がコレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名となります。
- d 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
- e システムを再起動します。

vCenter Operations Manager インストー ルの検証

6

vCenter Operations Manager サーバのインストールを完了した後、インストールが正常に完了していること、および vCenter Operations Manager が正しく動作していることを確認できます。 <>

これらの指示は、Windows サーバ用です。vCenter Operations Manager サーバを Linux で実行する場合は、適宜調整してください。

開始する前に

- vCenter Operations Manager サーバがインストールされていることを確認します。
- vCenter Operations Manager サーバの URL が手元にあることを確認します。

手順

- 1 インストール中にデータベース接続を確認するか、VMware vCenter Operations Manager の構成ユーティリティを使用します。
 - a [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] > [VMware] > [vCenter Operations Manager] > [VMware vCenter Operations の構成] を選択します。
 - b [フル構成] ダイアログ ボックスで、[テスト] をクリックします。
- 2 [コントロール パネル] から、[vCenter Operations Manager] - [vCenter Operations Manager] を選択して [サービス] ウィンドウを開きます。
- 3 vCenter Operations Manager サービスが動作していることを確認します。
サービスは、**ActiveMQ**、**vcopsWebService**、**AnalyticsService**、**CollectorService** です。
- 4 vCenter Operations Manager の URL に移動し、ユーザー admin およびパスワード admin を使用してログインします。
- 5 ライセンス キーを入力し、[保存] をクリックします。
- 6 ホーム ページで、デフォルトのダッシュボードが正しくロードされていることを確認します。
- 7 [環境] - [環境概要] を選択し、デフォルトのタグが左側に一覧表示されており、vCenter Operations Manager のリソースが右側に表示されていることを確認します。
- 8 15 分後、vCenter Operations Manager のリソースの健全性が青色から緑色に変わったことを確認します。
- 9 [記述情報] ペインにアダプタの記述が正常に終了したことを伝えるメッセージが表示されていることを確認します。
 - a [管理] - [サポート] を選択します。
 - b [情報] タブをクリックし、[記述情報] ペインを確認します。
- 10 [バージョン情報] タブをクリックし、vCenter Operations Manager バージョンとデータベース バージョンが正しいことを確認します。

- 11 [ログ] タブをクリックし、各ログに対してサービスが正常に開始されていることを確認します。
 - vCenter Operations Manager Analytics フォルダの **analytics.log**
 - vCenter Operations Manager Collector フォルダの **collector.log**
 - vCenter Operations Manager Web フォルダの **web.log**

プログラム グループによる管理

Windows に vCenter Operations Manager をインストールすると、[すべてのプログラム] メニューの VMware プログラム グループの下に vCenter Operations Manager プログラム グループが作成されます。

プログラム グループには次の項目が含まれます。

VMware vCenter Operations Manager の構成

vCenter Operations Manager 構成設定を変更するためのインターフェイス。You can select either basic or advanced configuration.

すべてのサービスの起動

サーバ上の vCenter Operations Manager 関連のサービスをすべて起動します。

- vcopsWebService
- AnalyticsService
- ActiveMQ
- CollectorService
- DTProcessorService (分析プロセッサがインストールされている場合のみ動作)
- ReplicationServerService (vCenter Operations Manager レプリケーションサーバ上でのみ動作)

すべてのサービスの停止

vCenter Operations Manager 関連のサービスをすべて停止します。

アンインストール

vCenter Operations Manager をアンインストールします。このプロセスにより、vCenter Operations Manager インストーラによってインストールされた vCenter Operations Manager サーバ、vCenter Operations Manager コレクタおよび分析がアンインストールされます。アダプタや、リモートサーバ上の vCenter Operations Manager コンポーネントはアンインストールされません。

vCenter Operations Manager コレクタのインストール

8

リモート ホストに vCenter Operations Manager コレクタをインストールできます。パフォーマンス向上のために、vCenter Operations Manager の活動を分散する目的でこれを実行することもできます。

開始する前に

- 管理者ユーザー名を使用し、サービスを作成するのに十分な権限を持つユーザーとしてログオンします。
- リモート ホストへログインし、vCenter Operations Manager 実行可能ファイルを含むフォルダへ移動します。

この手順は Windows 用です。Linux リモート ホストの場合も同様の手順に従ってください。

手順

- 1 `vcops-win32<バージョンおよびビルド番号>.exe` ファイルを実行して、vCenter Operations Manager インストール ウィザードを起動します。
- 2 ローカルを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 特許協約および使用許諾契約に同意し、[OK] をクリックします。
- 4 [次へ] をクリックし、コレクタの横にあるアイコンをクリックして、再び [次へ] をクリックします。
- 5 [インストール フォルダの選択] ページで、[次へ] をクリックしてデフォルトのインストール フォルダを受け入れるか、[選択] をクリックしてインストール フォルダを選択します。

デフォルトのインストール フォルダは、ご使用のシステムのデフォルト プログラム インストール フォルダの下にある `\vmware\vmcenter-operations` です。

[プリインストール サマリ] ページに、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。

- 6 [インストール] をクリックして、インストールを開始します。

このプロセスは数分かかる場合があります。

- 7 On the Configuration Mode page, select [Basic].

詳細モード構成を使用し、MQ 構成を変更してサーバをインストールした場合は、[詳細] を選択します。MQ 構成情報を入力します。

- 8 必要な構成情報を入力します。

[コレクタ名] でのデフォルト値は `vCenter Operations Standard Server_<SYSTEM_NAME>` です。これは、ローカル コレクタと同じ名前です。デフォルトを使用しないでください。

オプション	操作
ハートビート ホスト	vCenter Operations Manager サーバの IP アドレスを入力します。
ハートビート RMI ポート	インストール中にポートを変更した場合を除き、デフォルトのエントリ (1199) のままにしておきます。

オプション	操作
ホスト	メッセージキューの IP アドレスを入力します。これは、通常、vCenter Operations Manager サーバ ホストと同じです。
ポート	MQ が別のポート番号を使用している場合を除き、デフォルトの入力値 (61616) のままにしておきます。

- 9 [終了] をクリックしてインストールを完了します。
- 10 [終了] をクリックします。
- 11 ホストに 2 つの IP アドレスがある場合は、コレクタがどちらを使用すべきかを指定します。
 - a `vcenter-ops\user\conf\collector\wrapper.conf` ファイルを開きます。
 - b 次の行をファイルに追加します。IP address/Name は、コレクタに使用する IP アドレスまたはホスト名です。
`wrapper.java.additional.9=-Djava.rmi.server.hostname=IP Address/Name`
 - c ファイルを保存して閉じます。
- 12 コレクタ サービスを再起動します。

オプション	説明
Windows	[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] の順に選択し、 CollectorService サービスを再起動します。
Linux	<code>cd vcenter-ops/collector/bin/CollectorService.sh</code> restart と入力します。

vCenter Operations Manager コレクタがインストールされました。

vCenter Operations Manager アダプタのインストール

9

このセクションで vCenter Operations Manager Enterprise サーバのインストールと構成方法を説明します。

vCenter Operations Manager Enterprise サーバのインストール時には、デフォルトで 3 つのアダプタがデプロイされています。

- [vCenter Operations Manager アダプタ]。このアダプタは vCenter Operations Manager Enterprise を監視します。
- [HTTP ポスト アダプタ]。これは、HTTP 経由で vCenter Operations Manager ヘデータをプッシュするために使用される汎用アダプタです。
- [コンテナ アダプタ]。vCenter Operations Manager は、このアダプタを使用し、コンテナリソースを作成します。

All other adapter files are supplied separately. 追加アダプタのインストール ファイルについては、VMware の担当者に問い合わせてください。アダプタ インストール ファイルを入手したら、インストール手順にしたがってください。See the documentation supplied with the adapter for possible additional instructions.

アダプタのインストール

vCenter Operations Manager スタンドアロン インストールの場合は、この手順にしたがってアダプタをインストールしてください。

アダプタを vCenter Operations Manager サーバにインストールします。リモート vCenter Operations Manager コレクタにはアダプタをインストールしないでください。下記のステップ 6 で [記述] ボタンをクリックすると、すべてのリモート コレクタに対してアダプタが「プッシュ」されます。

この手順は Windows 用です。Linux リモート ホストの場合も同様の手順に従ってください。

開始する前に

- VMware テクニカル サポートからアダプタ用のファイルを購入します。
- アダプタのドキュメントをお読みください。ここに追加のインストール指示が含まれている場合があります。

手順

- 1 一時フォルダで、アダプタ ファイルを開き、展開します。
- 2 一時フォルダから、**AdpaterName_intsall.exe** ファイルを実行します。
- 3 一連のセットアップダイアログ ボックスで [次へ] をクリックします。
- 4 [プリインストール サマリ] ページで [インストール] をクリックします。
- 5 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 6 vCenter Operations Manager を起動し、**admin/admin** 認証情報を使用します。

例： **https://<ipaddress>/vcops-custom/**

- 7 [管理] - [サポート] を選択します。
- 8 [情報] タブで、次を選択します。
 - a [アダプタ情報] ペインで [記述] アイコンをクリックします。
 - b [確認して、記述プロセスを開始する] をクリックします。
 - c [アダプタの再記述が開始されました] という情報ダイアログを確認します。

vCenter Operations Manager がアダプタ ファイルを検出し、アダプタのアビリティに関する情報を集め、アダプタに関する情報でユーザー インターフェイスを更新します。

アダプタがインストールされます。認証情報を定義し、新しいアダプタの新しいインスタンスを作成します。

分析プロセッサのインストール

このセクションで vCenter Operations Manager 分析プロセッサのインストールと構成方法を説明します。

vCenter Operations Manager サーバのインストールには、各種 vCenter Operations Manager 分析の計算をすべて実行するプロセスが含まれています：動的しきい値、フィンガープリントなど。vCenter Operations Manager では、動的しきい値の計算のみを扱うよう、1 つあるいは複数のリモート ホストに別途分析プロセッサ（DT プロセッサと呼ばれる）をインストールするというオプションも提供されています。これには 2 つのメリットがあります。

- 分析処理が 2 つあるいはそれ以上のホスト間で分散するため、パフォーマンスが向上し、サーバ上の需要が緩和されます。
- 動的しきい値計算のための専用プロセスを設ける場合、動的しきい値に問題があっても、分析プロセス全体が停止することはありません。

分析プロセッサのインストール

You can install the DT Processor on one or more remote hosts. It is supported on both Windows and Linux hosts; the installation process is the same on either.

開始する前に

vCenter Operations Manager Enterprise サーバ インストールの最初の 6 つの手順を実行します。

手順

- 1 [インストール セットの選択] ページで、[分析プロセッサ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 2 ロケールを選択して、[次へ] をクリックします。
- 3 エンド ユーザー特許協約で [次へ] をクリックします。
- 4 使用許諾契約書で [次へ] をクリックします。
- 5 On the Choose Install Folder page, accept the default or click [Choose] and browse to the folder where you want to install the processor. [次へ] をクリックします。
- 6 [プリインストール サマリ] ページには、インストールされるコンポーネントが一覧表示されます。[インストール] をクリックして、インストールを開始します。
- 7 [DT プロセッサの構成] ページで、[vCenter Operations Server] フィールドに vCenter Operations Manager サーバ ホストのホスト名または IP アドレスを入力し、[ポート] フィールドに RMI が分析サービスにアクセスするポート番号を入力します。デフォルトは 1199 です。[保存] をクリックします。
- 8 [インストールの完了] ページで、[完了] をクリックします。
- 9 vCenter Operations Manager Enterprise サーバ ホスト上で、ファイル `vcenter-ops\user\conf\analytics\advanced.properties` を編集します。

- 10 **distributedDTCalculationEnabled** プロパティを検索し、それを **true** に設定します。
- 11 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
- 12 vCenter Operations Manager サーバ ホスト上の分析サービスを再起動します。
- 13 Check to see if the service starts on the remote host.The service name is Analytics Processor.

Installation of the DT processor is complete.

インデックス

V

vCenter Operations Manager のインストール 17
vCenter Operations インストールおよび構成ガイドに
ついて 5

あ

アーキテクチャ 7
アダプタ, インストール 33

い

インストール, Linux 22
インストール, Linux GUI モード Linux ガイド モード,
インストール 19
インストール, Windows 17
インストール, アダプタ 33
インストール, 検証 27
インストール, 分析プロセッサ 35

お

オペレーティング システム, 要件 9

か

概要 7

く

クライアント システム要件 10

こ

構成, 詳細 23
コレクタ, インストール 31

そ

ソフトウェア要件 9

ち

チェックリスト, インストールおよび構成 11

て

データベース サーバ要件 10
データベースの準備
Oracle 14
SQL Server 13
概要 13

は

ハードウェア要件 9

はじめにはじめに 7

ふ

プログラム グループ 29

よ

要件, ハードウェア 9

